

まちをよむ、まちをあそぶ。

? 中心市街地の施設整備が進む中
 <わたしたち>は「まち」を構成する施設でどんなことができるだろう？



第1回 中心市街地を考えるステップ1 (180分) **対話**
まちをよむ 参加者自身もつ「まち」へのイメージ”を共有して、実際にまちを歩いてみよう！ **まちあるき**

期日
 令和4年12月17日(土)

参加人数
 22名

- ① まちのイメージを共有しよう **【対話】**
- ② まちあるきをして確かめよう **【まちあるき】**
- ③ まちあるきでの気づきをまとめよう **【まとめ】**

参加者を須賀川駅周辺、南部地区、翠ヶ丘公園の中心市街地内3エリアのグループに分けて実施。中心市街地にある通りや各施設・空間について、グループごとに事前に「情報／体験／感情」別」に書き出し、現状もっているイメージをワークシート上で共有したあと、実際にまちあるきをしワークで書き出した内容との違いや気になったことを確認した。実際に歩くことで見えた課題や気づきなどを再度「情報／体験／感情」ごとに書き出し、ワークシート上に張り出し、今回の成果品とし、グループごとに発表を行った。

まとめ 中心市街地への市民の想い

まちあるきや企画ノート創作を通じた対話によって、参加者からは須賀川への強い想いが伺えました。そこから中心市街地活性化実現へのキーワードを抽出しました。

キーワード	須賀川が好き	現状を知る
	資源を活かす	市民主体として動く

第2回 中心市街地を考えるステップ2 (150分) **対話・創造**
まちをあそぶイベントを企画しよう まちあるきの気づきを元に「まち」をより遊び尽くすためのアイデアをまとめよう！

期日
 令和5年1月21日(土)

参加人数
 22名

- ① イベント案を考えよう **【対話】**
- ② 体験メモをつくろう **【創造】**
- ③ イベントを企画ノートにまとめよう **【まとめ】**

まちあるきでの気づきをもとに、まちづくりの背景や可能性・課題を整理し、まちなかをもっとあそぶためのイベントをグループで1つ決め、イベントを体験する時に実際に起こりそうなストーリーを各自考えて、体験メモを作成し、そこからグループ全体で一つの企画ノートにまとめ発表し、講評と質疑回答を行った。

イベント企画タイトル 風流フェス **Bグループ**

背景や可能性・課題
 地元の人が歩いていない
 ↓
 人の気配を呼び戻す

企画内容

5月下旬開催	5月下旬開催
7:00 開市	9:00 ちようちん作り
9:00 ちようちん作り	12:00 キッチンカー(串刺しの店)
12:00 キッチンカー(串刺しの店)	お茶会(風流のはじめ館)
16:00 お茶会(風流のはじめ館)	18:30 お茶会
18:30 お茶会	点灯式/松明大鼓
21:00 出店	

この企画を実施すると中心市街地はどうなるか
 人通りが増え、地元のお店も活気付く。須賀川をSNSで宣伝できる。魅力の発信

歩く **地元向け** 南部地区の人通りのなさや暗さを資源として活かすイベントアイデア

イベント企画タイトル 音楽イベント/ゲームイベント **Aグループ**

背景や可能性・課題
 ・待ち時間が長マ
 ・駅利用者しか駅に来る人がいない
 ・土日は学生が来ない

企画内容

駅周辺	月一回 土日(午後) 駅前のウルトラマン像前を メインステージに
駅周辺	JRさん 任天堂さん ボランティア

この企画を実施すると中心市街地はどうなるか
 ・駅周辺に住む関連のあるプロを繋ぎ
 ・イベントにも使える「ストリートピアノ」を設置する
 ・駅周辺に魅力的なお店を増やす
 ・駅利用者以外の利用者が増える

音楽 **ゲーム** 駅での待ち時間を
待ち時間 退屈させないための遊具設置アイデア

イベント企画タイトル 須賀川“超”体験 **Cグループ**

背景や可能性・課題
 現状成果が出ていない(観光誘致、人口減少、企業誘致、ベンチャー)
 他地域との差別化/ベンチャー、スタートアップ創出、誘致
 財源不足(自治体負担大)

企画内容

コンセプト	民間主体の観光誘致、表内ファンによるファンのためのマーケティング施策
中心市街地	市民自らが集客施策を実施する
中心市街地を中心とした元行き	事業機転をサポート 事業を実施したい人、(特定領域のコアファン 音楽、ウルトラマン、花火、松明等) 条件の改定を実施できる人

この企画を実施すると中心市街地はどうなるか
 ・市民自らが集客施策を実施する
 ・外部連携、税収アップ、企業誘致、交流人口増、世界観創出(ウルトラマンが好きで市民が市外からウルトラマン好きを呼び寄せ交流を深める)

体験 **差異化** 市民が好きなことでファンを増やして、市民主体な集客施策アイデア

今後の課題と可能性

2回開催と少ない時間での対話からも、中心市街地の活性化が、「日常や暮らしの延長にあること」や、「自分達の手で実現したい」という強い想いが伺えました。多様な世代・属性の人が集まり対話し、創造することに、改めて協働・共創の可能性を感じました。

今後は、この「強い想い」を、どう活かし、どう具現化させていくか、アイデア実践に向けた準備機会によって、「想いを力に変える」実践へ繋げていくことで、本当の意味での協働・共創が実現していくでしょう。

これからもまちづくりに多様な市民が主体的に参加し、ともに学びながら、須賀川の未来をともに創造する中で、今回市民のみなさんによって描いたストーリーや企画は段階を経て、中心市街地活性化計画に反映していきます。